

(資料 1)

2020 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までに
当院で睡眠時無呼吸症候群の検査をした方およびご家族へ

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

● 研究の名称 超高齢者の睡眠時無呼吸症候群に関する研究

1．研究の対象

2020 年 1 月～2021 年 12 月に当院で睡眠時無呼吸検査を受けられた 80 歳以上の方

2．研究の期間

研究許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日

3．研究目的および意義

わが国での閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）の罹患率は全体で 1.7%、約 200 万人との報告があります。その発生率は年齢とともに上昇するため、わが国の高齢者の SAS は多数いることが想定されます。睡眠時無呼吸は、脳卒中、軽度の認知機能障害、および認知症のリスクの増加と関連することが知られていまして、高齢者においても、睡眠時無呼吸が病的意義を持つことが明らかになっています。動脈硬化や心筋梗塞、心不全、脳梗塞のリスクを高めると同時に、転倒、夜間頻尿、認知機能低下、うつ状態、嚥下障害、誤嚥などの老年症候群のリスクになることが知られています。高齢者であっても、SAS を積極的に治療することが各種疾病予防、高齢者の生活の質の向上につながると考えられています。特に、慢性閉塞性肺疾患、夜間頻尿、尿失禁、認知症との関連も深く、肥満以外の病態との関連が深いことから、高齢者に対して SAS のスクリーニングをすることが望ましいと考えられています。

超高齢者においても、一般成人と同様の診断基準、治療適応基準で対応するため、SAS の治療は CPAP（持続陽圧換気）が主となるために、治療の遂行がしばしば困難となります。

高齢者であっても、SAS を積極的に治療することが各種疾病予防、高齢者の生活の質の向上につながると考えられています。超高齢者に対する臨床データは十分ではありません。超高齢者に対する OSAS の臨床像とその生活機能、要介護度との関連について検討し、超高

齢者に適した治療法を確立することを目的とした研究です。

4．研究の方法

通常の診療の中で得られる診療情報や臨床検査の情報を、個人を特定できない形で収集させていただきます。

5．研究に用いる試料・情報の種類

性別、年齢、BMI、介護度、検査場所、検査目的、AHI、ODI、ESS、PLM、重症度、無呼吸パターン、臨床症状(眠気、睡眠障害、いびき、睡眠中呼吸停止、起床時倦怠感・頭重感)、治療、DASC(記憶、見当識、問題解決判断力、家庭外のIADL、家庭内のIADL、身体的ADL)処方数、眠剤の有無、既往歴(呼吸器疾患、心疾患、脳・神経疾患、認知症、泌尿器疾患、高血圧症)など

6．研究組織

研究代表者： 東京都健康長寿医療センター高齢診療科 村野陽子

研究担当者： 東京都健康長寿医療センター高齢診療科 岩切理歌

東京都県境長寿医療センター呼吸器内科 山本寛

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なご対応ができない場合がありますことをご了承ください。

問合せ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

高齢診療科 村野 陽子

電話 03-3964-1141 (平日 9 : 00 ~ 17 : 00)